



学校だより

「自他を認め、支え合う生徒」をめざして

校長 川井 まさよ

令和5年度がスタートしました。今年度は、全校生徒 441 名となります。保護者の皆様には、お子様の入学、進級、おめでとうございます。今年度も無事スタートできましたのは、保護者の皆様、地域の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

さて、始業式と入学式では、教育目標の一つである「自他を認め、支え合う生徒」となるために欠かすことのできない、「思いやり」について、以下のような話をいたしました。



(前略) (本校の教育目標の一つに)「自他を認め、互いに支えあう生徒」とありますが、このような生徒となるためには、「思いやり」のある人となる必要があります。「思いやり」とは、「相手の気持ちを考え、配慮する」ことであり、「相手と同じ気持ちになって考えること」、つまり「相手の立場に立って考えること」は、思いやりには、欠かせない事といえます。

しかし、あなたが単に相手の立場に立ったと思っていても、相手と同じ気持ちになるとは限りません。なぜなら、自分の受け止め方と、相手の受け止め方は違うのですから。

では、「相手の立場に立って考える」とは、どうすればよいのでしょうか。

例えば、あなたが相手に対して、冗談のつもりで言った一言が、とても相手を傷つけてしまったとします。そして、そのことで先生に注意を受け、「あなたが相手の立場だったら、そんなこと言われて、どんな気持ちになるか考えてごらんなさい。」そう言われたとします。つまり「相手の立場に立って考えなさい。」と、注意されたわけです。

けれど、あなたが、その人の立場に立って考えても、その程度では傷つかないかもしれません。もし、そうであれば、相手の立場に立って考えた結果、「私なら冗談だと分かるので、笑って済ませます。」などと答えてしまうかもしれません。「自分ならそんなこと言われたら言い返します。」と言うかもしれません。

でも、よく考えてみてください。こうした答えは、「あなた」が、相手の立場だったらどう思うか、つまり、あなたが心無い言葉をかけられたりしたらどう思うか、ということへの答えであり、それは、「相手」がどう思うか、つまり心無い言葉をかけられた「その人」がどう思うか、ということへの答えとは別のことである、ということになるのではないのでしょうか。

「相手の立場に立って考える」とは、「あなたなら、つまり、自分なら、どう思うか」と考えるのではなく、「あなたが相手の気持ちを想像し、できれば相手になりきって相手の気持ちを考えたらどう思うか」と考えるということなのです。この二つを区別して考えることは、とても重要なことです。

思いやりとは、相手を受け入れ、相手に成り切る、それができなければならないということです。これは大変に難しいことですが、少しでも できる人に近づけるよう努力する事が必要だと思います。(後略) 「入学式式辞より抜粋」



学校の目的(社会に対する役割)は、「良き社会人」の育成です。生徒たちが将来、「良き社会人」として社会で活躍し、貢献できる人となるよう、本校の教育目標にある生徒の姿をめざして、今年度も、教職員が一丸となりまして、教育活動に取り組んでまいります。保護者、地域の皆様とともに、生徒たちを「良き社会人」として育てていきたいと思っております。なにとぞご理解、ご協力をお願い申し上げます。

【学校教育目標】

社会の一員としての自覚を高め、豊かな想像力と実践力をもった人間の育成を目指して、

- 自他を認め、支えあう生徒
- すすんで学び、考え、行動する生徒
- 心身を鍛え、たくましく生きる生徒

